

### C. 挿木苗移植試験

挿木の際萌芽した節位を測定し根は黒鷲定ものが92%の活着で最高成績であった。二重根を有するものも上根を利用する事により78%の活着を示しているのでこの両者を併用すれば移植の目的を果し得る。

### D. 芳しように対する霜除の可否試験

霜除区が露出区より被害は僅かに少なかった。生高面は霜除撤去後に於て霜除区が樹高根至共生育量が多い9月現在に於ては露出区は根至は1.74m太く樹高1.2cm低い着葉量は露出区との3枚 霜除区3.65枚となっている。又地上部全体被害を被つたものも若芽萌芽生長しているので霜除の必要性は強く認められない。然し乍ら気象的因子で大部差があるを推察されるので本試験のみでは断定し得ないので更に今後の各地の調査に俟たねばならない。

## 2.4-D苗圃應用試験について (第一報)

長崎縣経済部林務課

林業専門技術普及課 七 佐 系 滋

長崎県森林組合連合会

技師 相川 勝 大

(1) 緒言 水田除藻剤としての2.4-D使用については農業方面で実験者であり既に実用的使用の域に達しているがとが苗圃地に於ける実験の結果は未だ発表されていない。(本年5月の香取藩境に於て日本森林公社熊本地方局の植谷純司氏が「2.4-Dに対する林木稚苗の耐害性並びに除草効果に関する研究」を発表されその結論に於て施用濃度を0.1~0.2%とし、ヒノキ等に於て耐害性が極めて少く苗圃に於て実用化されるとの見解発表されている)而して本試験の結果は施用濃度0.05~0.2%に於て、スギに於ては極めて甚大なる悪作用を受けマツに於ても1年生では被害あり、ヒノキに於ても相当の被害を認めざるを得ないので苗圃地に於ける施用は一般の方法では未だ推奨出来ないという結論に達した。

### (2) 試験方法

(a) 試験地 長崎県諫早市久山町長崎県森林組合久山苗圃

(b) 試験期間 昭和25年8月30日より開始し10月末迄にも回の観察を行い現在継続中

(c) 使用薬剤 三井化学工業株式会社製品

假比由0.24~0.35 粉末度100×ツシ以上 水素イオン濃度7.5~8.0  
成分2,4ジクロールフェノキシ酢酸メタ水化物95% 以上濃度前記市販薬剤の重量比

率により 0.05 0.1 0.15 0.2% の4種類とす。

(d) 試験方法

(i) 供試樹種及実施面積表の通り

各濃度樹種別供試面積

樹種	スギ	ヒノキ	マツ	クヌギ	クリ	ハゼ	マテバシ	アブラギリ
区分								
1年生 本年2-3月 播種のもの	R R 1.5X1.0	R R 1.5X1.0	R R 1.5X1.0	R R 4.0X3.0	R R 4.0X3.0	R R 3.0X3.0	R R 1.0X1.0	R R 3.0X3.0
2年生 昨年2-3月播種 本年4-5月移植	4.0X3.0	4.0X3.0	4.0X3.0	4.0X3.0		R R 3.0X3.0		
合計	13.5	13.5	13.5	24.0	18.0	9.0	1.0	9.0

(註) 上記は各濃度別であるので総面積は1.015平方尺×4=40.6平方尺である

(2) 撒布方法 先づ前記薬剤を温湯で充分溶かし水溶液を作り噴霧器にて苗木及稚樹に水滴が  
余り滴らぬ程度に均一に撒布した。

(3) 観察 撒布後3時間24時3日7日20日60日の6回に互り丈々観察記録した。

(3) 試験結果

(a) 雑草 (i) 反応極めて弱く変化殆ど無いもの サルトリイバラ、カヤツリクサ(開花  
したもの)、ヒンジカマツリ(開花したもの)、4カラクサ(開花したもの)、アキメヒジハ、  
ヤマノイモ

(ii) 反応緩慢であるが20日後の調査に於て枯死したもの

ヒメスギゴケ(0.2%は枯死 0.05%のものは枯死せず)、イヌビユ、4ドメクサ、スベリ  
ヒユ、ミカンソウ、マルバハギ

(iii) 反応強く3日-7日後の調査に於て枯死したもの

スギナ、ハハコクサ、ヨモギ、ワラビ(若いもの)、サラムシ、ムカシヨモギ

(b) 苗木

(i) 反応極めて弱く変化殆ど無いもの マツ(2年生)、マテバシ

(ii) 反応緩慢であるが20日後の調査に於て変色するか生長に悪影響のあつたもの。

マツ(1年生葉変色) スギ(1年生は20%枯死) クリ(濃度高い程枯死亡率多し) クヌ  
ギ(濃度高い程枯死亡率多し) ヒノキ(濃度高い程変形多し)

(iii) 反応強く7日後の調査に於て葉が枯死或は完全枯死

アブラギリ ハゼ(枯死(と葉は落ち、幹から再発芽す))

結 言 苗圃地に於て稚樹駆除目的で 2,4-Dを一般方法(水溶液)にて0.05~0.2%で  
撒布すれば針葉樹に於てはスギは耐害性弱く枯死或は生長異常を起し苗木養成に悪影響あり、ヒノ  
キは耐害性比較的強くして悪影響無きものと懸料されるが生長形態に於て若干の異状を認められ  
マツは1年生は葉が大部分枯死し、生長に於て悪影響あるものと認め、又刺葉樹については、マテ

パシイ等の常緑樹は耐害性強く余り悪影響はない。落葉、落葉樹、殊にアズラギリは最も弱くハゼ、クリ、クヌギ等も $0.05\%$ のもので葉は枯死し、生長に悪影響あるものと認む。

## くすの挿木に就いて

日本専売公社しよう験験場

森 太三郎

和田 功

〔目的〕 くす苗木の保続的な生産を確保し且又優良品種固定の立場より無性繁殖の一方法として内地くす挿木に関する試験を行つて居るのでその概要を報告する。

〔成績〕 利用部位別成績 挿付後一年経過

a. 一年生山出苗木葉部 幹長  $21.4\text{cm}$ 、萌芽直径  $5.2\text{mm}$ 、得苗率  $68.2\%$  b. 壯令木萌芽幹長  $11.1\text{cm}$ 、萌芽直径  $3.9\text{mm}$ 、得苗率  $28.6\%$  c. 同幹 幹長  $14.6\text{cm}$ 、萌芽直径  $4.2\text{mm}$ 、得苗率  $1.8\%$  d. 同梢枝 得苗率  $0\%$  e. 同小根 得苗率  $0\%$

(但し何れも無肥料)

a~cの各部について含水率及び窒素を調査したが活着率の良好なもの程生体量に対する含水量が大で生体量に対する灰分量、有機質量は小である。一年生山出苗木葉部利用の挿木について次の採得結果を得た。(挿木後6ヶ月)

1. 採得時期は鹿児島地方では3月で採得後直ちに挿付ける。
2. 挿木の下端は萌芽部を切断されたまゝでよく水浸の要はない。
3. 切口面の形状は葉よりの差散型には影響しない。
4. 1本の苗木より長さ  $10\text{cm}$  の挿穂を2本採取し、 $5\text{cm}$  の深さに挿付たが上段穂は  $4.0\%$  で生育は悪い。下段穂の活着率は  $65\%$  で生育もよいが
5. 穂長を  $20\text{cm}$  にして挿付深さ  $5\text{cm}$  のものは活着率  $85\%$  幹長  $29.4\text{cm}$  萌芽直径  $5.3\text{mm}$ 、 $10\text{cm}$  のものは  $81\%$ 、 $29.5\text{cm}$ 、 $4.8\text{mm}$ 、 $15\text{cm}$  のものは  $55\%$   $22.7\text{cm}$   $4.0\text{mm}$ 、 $20\text{cm}$  のものは  $19\%$   $12.6\text{cm}$   $3.4\text{mm}$  となつている。
6. 挿穂に頂芽のあるものは  $73\%$  無いものは  $42\%$  の活着率を示す。
7. 挿穂に葉二、三枚あるものは  $66\%$  無いものは  $32\%$  の活着率である。
8.  $20\text{cm}$  の挿穂を  $15\text{cm}$  に挿付け地上部を  $20\text{mm}$  剥皮したものは  $54\%$  然らざるものは  $72\%$  である。但し落葉無し

ニ三年生の幼木の枝を利用したもの及び一年生山出苗木の根葉部を利用したものは活着率生育共に不良である。